

各地の自然災害で被災された方々、新型コロナウイルスに感染された方々、ウクライナの戦禍の中にある方々に、心からお見舞い申し上げます。神様の慰めと助けがありますよう、お祈りしております。

# 8/28(日)15:00～ 森繁 昇サマーコンサート Vol.20

入場無料 (感染症対策を万全にして実施します。)

ライブ配信も行います。(教会ホームページからご覧いただけます。)

3年ぶりに、森繁 昇さんのユーモラスなトークと素敵な歌声を生でお聞きください。

森繁さんのオリジナルソングを1曲抜粋してご紹介します。

「道の駅」 作詞・作曲／森繁 昇 (抜粋)

車を降りたら 聞こえてきました  
誰かがギターで歌う声が 何処からか  
その歌声に誘われて来ました  
ここは旅の途中の 道の駅

ギターの音色も優しいけれど  
言葉が心に届き 語りかけてくる  
過ぎて行く時を忘れて聞きました  
ここは旅の途中の 道の駅

わずかなこの世での 命の中で  
人が知るべき良い知らせを聞きました  
全てを造られた神様の愛を  
ここは旅の途中の 道の駅

歌う彼の目に 涙が光る  
思わず窓を下げて手を振ったら  
なぜだか私も涙が込み上げてきた  
ここは人生の途中の 道の駅

【プロフィール】



山口県生まれ。大学卒業後、米国テネシー州に渡り、イエス・キリストに出会う。その後、音楽伝道を開始。1986年ハワイに拠点を移す。年間3～5回来日し、各地の教会でコンサートツアーを展開する。

暑い夏の日を歩いて木陰に入り さわやかな涼しさを味わう 緑陰の恵み



## キリストを現代に伝える人たち ～三浦 綾子～

「氷点」や「塩狩峠」などで有名な三浦綾子(1922-1999)は、日本人クリスチャン作家の代表とも言える人物です。そんな彼女にも、キリストとの出会いのスタートがありました。

戦時中、小学校教員だった綾子は、「お国のために命を捧げることは、すばらしいことだ」と、子どもたちに教えていました。やがて終戦を迎えた綾子は、自分は間違ったことを教えていたのかと絶望感にさいなまれて、教員を辞めてしまいました。自分は何のために生きているのかと、答えの見つからない問いを抱きながら、自暴自棄な生活を送るようになった彼女を待ち受けていたのは、結核との厳しい闘病生活でした。しかし、この苦難こそ、キリストとの出会いへと導かれるきっかけだったのです。



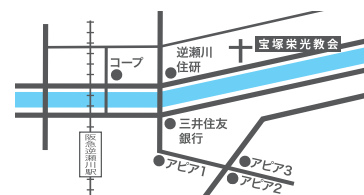
それは、幼馴染みのクリスチャン青年との再会でした。彼は、綾子にキリストの福音を伝え、「真剣に生きてほしい」と語りました。始めは馬鹿にして聞こうとしなかった綾子も、彼の真剣な姿に心を打たれ、彼をそこまでさせるキリストとは何者かと、求め始めました。彼は、綾子を信仰に導くという使命を果たし、結核のために地上の命を終えました。

その後、綾子は、多くの病と闘いながらも、数々の小説を世に出し、人の罪の姿とキリストの救いを伝えました。人は何のために生きるのか、という自らも苦しんだ問いに、本当の答えを出せるのはキリストの救いだと、訴え続けました。綾子の小説を通して、今もなお、多くの人々が生きる希望を見出しています。平和の大切さが叫ばれる今、私たちに必要なのは、生きる希望ではないでしょうか。

## 宝塚栄光教会 牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com



教会HP

礼拝動画

希望のダイヤル (聖書のお話)

0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30～10:30

第二部 11:00～12:00

わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なプロテスタントのクリスチ教会です。お困りの方はご相談ください。

## 耳のある者は聞きなさい

子どものころ、学校の先生の言われることをうわの空で聞いて、とんでもない失敗をする、ということがよくありました。人の言うことを聞くことは、大切なことです。英語で「聞く」という言葉に2つあります。hearとlistenです。前者は「聞こえてくる」といった感じですが、後者は「耳を傾けて聴く」という意味合いがあります。漠然と聞くのではなく、集中して聴くことが求められる場面が、時々あるように思います。

キリストは、多くの人々に、たとえを使って神の国のお話をなさいましたが、その中に、「種蒔きのたとえ」があります。農夫が種を蒔いているうちに、道端、岩地、茨の間に落ちた種がありました。道端に落ちた種は鳥が来て食べて行き、岩地に落ちた種は芽がすぐに枯れ、茨の間に落ちた種は、繁殖力の強い茨に生長を妨げられました。しかし、柔らかい良い地に落ちた種は、幾倍にも実

を結びました。そのようなお話です。含蓄のあるお話ですね。

このたとえの意味を解き明かされた後、キリストは弟子たちに、「耳のある者は聞きなさい」と言われました。耳はみな持っています。しかし、人によっては、しっかり心に留まる場合もあれば、記憶の片隅にも残らない場合もあります。要は心です。耳があるかどうかということは、神の言葉を自分のものとして聴いて受け入れようという、謙虚で柔らかい心があるかどうか、ということです。

神の言葉は、私たちのたましいを生かす力があります。聖書に「みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」(ヤコブの手紙1章21節)とあります。こちらの側に聞く耳さえあれば、神の言葉は私たちに救い、助け、励まし、導きます。聴いていきましょう。まず何をさておいても聴きましょう。信じることは、その後についてくるものです。



## 「ムクゲ(木槿)」ー夏の花ー

厳しい太陽の光が 容赦なく照りつける 真夏の日々  
盛夏の頃の花 といわれているムクゲは  
朝からスッと上を向き 五弁の花びらを 風にゆらせている

朝に咲いて 夕べにはしおれてしまう 一日花であるのに  
そんなことを 微塵も思わせない  
次の日には 次の花が しっかり咲いて  
次々に 秋まで咲き続けるのだ  
ムクゲの強靭さを 見る思いである

古い花である  
日本には 平安時代より前に 伝えられていたという  
出身は 中国と言われているが  
シリア インドなど 東南アジアでも自生している  
また 韓国の国花でもある  
夏の茶花として 茶室に欠かせないのは  
一日でしほむ儂さが 茶道の一期一会に通ずるとのことである

また 唐の詩人 白居易の「きんかいちじつ えい槿花一日の栄」は  
人の世の栄華の 短く儂いことのたとえで 知られている  
槿花とは ムクゲのことである

今日もムクゲの花は 夏風にふかれて 咲いていた

耳を傾けて 賢人たちの言葉を聞け  
わたしの知識に 心に向けよ  
それを あなたの腹に納め  
ひとつ残らず 唇に備えておけば 喜びを得る

箴言22章(聖書)